



梅谷市長を訪ねた大前君（左）と小林君（中央）

台湾の各代表4チームが参加し、優勝を目指して熱戦を展開するものです。結果、2人の活躍もあり、日本代表チームは見事に優勝しました。

世界を舞台に活躍誓う 養父市出身の2人が日本代表に

8月12日から8月21日の間、台湾で開催された「2005国際招待高校野球大会」に、日本代表として「大阪府・兵庫県連合選抜チーム」が出場しました。

同チームに、養父市出身の小林達郎君（育英高等学校3年）と大前佑輔君（社高等学校3年）の2人が選出され、8月8日には養父市役所を訪れ同大会での活躍を誓いました。

同大会は、日本をはじめキューバ、オーストラリア、



敬礼の指導を受ける市消防団員

炎天下のなか訓練で団結 市消防団員131人が夏季訓練

8月7日、消防団による夏季訓練講習会が旧関宮小学校グラウンドで開催されました。

この訓練は、団員各自の規律心の育成と確実な動作や指揮能力、団結力の養成を目的として、3年に1度開催されているものです。

訓練では、県消防学校教官や市消防本部の指導のもと、服装点検にはじまり敬礼や号令のかけ方、部隊の集合や行進などの部隊訓練が行われました。炎天下にもかかわらず参加した131人の団員は、汗だくになりながらも、大きな号令をかけ、機敏な動作で訓練に取り組んでいました。

片岡稔団長は「自らを引き締めて、一つでも災害を減らすことにつながれば嬉しい」と話されていました。

母校で気持ちを新たに

八鹿小学校同窓会が「希望の塔」を開ける

毎年恒例となっている八鹿小学校同窓会による「希望の塔開扉式」が8月15日、八鹿小学校で行われました。

希望の塔（高さ、幅約1・8m）は、昭和59年に同窓会とPTAが建立したもので、毎年卒業生が将来への夢や希望などを書いた手紙を「立志の書」と書かれた箱に入れて保管し、20歳になる年に開けています。

今年も、平成8年度卒業生73人のうち44人が出席。校歌を歌ったり、当時の担任の先生の話しを聞いた後、「希望の塔」の扉を静かに開け、中から手紙や写真など懐かしの品を取り出しました。学業や就職などさまざまな進路を歩んでいる同窓生たちは、お互いに手紙を見せ合いながら当時を懐かしみ、気持ちを新たにしていました。



希望の塔から思い出の品を取り出した卒業生ら